

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

- ②ダイナミックな多角的、立体的構造：背後に神意 [偶然はない]
全聖書の構成の焦点は、人類の救い主イエス・キリスト
- ④聖書自体が成就を証しする真の神の預言：聖書が聖書を解釈
神の約束の確かさ、成就の確かさ（ご自身の言葉に真実な神）
- ⑥究極的に立証される神のすべての言葉
キリストご自身が神のご計画の「しかり」、アーメン

使徒パウロの宣教

その22

『コリント人への手紙第二』3、4章

3章

: 1「私たちはまたもや自分を推薦しようとしているのでしょうか。それとも…」:

- * パウロが直面した試練、パウロに反対する偽りの兄弟たちによる攻撃
- * 偽りの兄弟たち、自らをキリスト者と称したが、現実にはユダヤ人の律法主義者、
真の福音を実際には理解していなかった

律法主義と神の教え

☆律法主義者は

自分の努力で義を獲得、達成することができると信じ、人の手に成る宗教に従事する者

☆神の教示

- ☆ アダムとエバが用いた「いちじくの葉」—宗教を象徴—、
神によって「動物の皮」—神が備えられた手段— に置き換えられた
→ 創世記3章
- ☆ 神、二人に無実の動物の血を流すこと（神の手段）によって罪が覆われることを教えられた
- ☆ 御旨に従ったアベルのささげ物、神に受け入れられた
→ 創世記4章

: 2-3「私たちの推薦状はあなたがたです。それは私たちの心にしるされていて…」:

- * 信徒自身がパウロの推薦の手紙
- * 信徒はキリストのご自身の「手紙」で、御霊が反映されている

: 4「私たちはキリストによって、神の御前でこういう確信を持っています」:

- * 「このような確信は、神の御前でキリストを通して、私たちのものです」(NIV)

: 5「…資格が私たち自身にあるというわけではありません。私たちの資格は神から…」:

- * 内住のキリストに自分を通して働いていただくには、
自我を打ち砕き、自分に死ななければならない
- * 自分に破産宣告して初めて、キリストが生き、自分の代わりにキリストが働いてくださる
- * 「生まれ変わる」必要

聖書

- : 6 「神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました…」（下線付加）：
* 「καινός カイノス」、一質において「新しい」—

旧約

☆モーセの律法は人に生命を与えなかった

☆モーセ自身、律法によって救われることはできなかった！

☆殺人者は律法下では死の懲罰を受ける身

☆果たして、ユダヤ教徒は全世界に出て行って、旧約の栄光を宣言しただろうか？

☆裁きの神を宣言するために出て行った

→ローマ人3：19

- : 9 「罪に定める務めに栄光があるのなら、義とする務めには、なおさら、栄光があふれ…」：

* 対照的な二つの務め

1. 罪に定める務め、「死の務め」

2. 義とする務め、「霊に生きる務め」

- : 10 「そして、かつて栄光を受けたものは、この場合…栄光のないものになっている…」：

* 後に来る、より大きな栄光、一新約— は、先に顕された栄光、—旧約— にはるかにまさる

- : 13 「そして、モーセが…顔におおいを掛けたようなことはしません」：

* シナイ山で二度目に与えられた律法、一恵みで調整された律法—への言及

* モーセが最初にシナイ山から降りてきたとき、

民はすでに十戒の最初の掟を破っていた

* モーセ、二つの石の十戒の板を破壊、空手で下山、民の執り成しをした

* モーセ、再び四十日間、山上で過ごし、神、

懺悔した者が神の近くに来ることができる「いけにえ制度」を提供

反映された栄光

☆モーセの顔、神と交わったことによって光輝いた

☆しかし、その栄光が消え去ることを、モーセ、知っていた

☆旧約の栄光は存続できなかった

☆外的、一時的に神の栄光を反映したに過ぎなかった

☆対照的に、新約の栄光は内なる御霊による永久の栄光

- : 14 「…今日に至るまで、古い契約が朗読されるときに、同じおおいが掛けられたまま…」：

* 「顔おおい」に象徴されるのは、偏見、希望的観測、不従順、教えを聞かない霊

- : 16 「しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです」（下線付加）：

* 人の心

- : 18 「…栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます…」（下線付加）：

* 「変貌させられて」

→マタイ17：1-8

* 主の御顔の栄光へと変えられる

聖書

4章

- : 1 「こういうわけで、…私たちは…勇気を失うことなく」 (下線付加) :
- * 失意に陥ることはない
 - * パウロ、困難にめげず、任命された務めに忠実に献身
 - * 「神はこのミニストリーを、失敗、失意に終わるために、任せられたのだろうか？」と自問自答
 - * 神の召名で始まったミニストリー、神ご自身が機能
 - * 神はご自分が始められたことを終えられる
- : 2 「…真理を明らかにし、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています」 :
- * この姿勢によってパウロ、自分自身が偽りの教師、「だます者」になることから守られた
- : 3 「それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら…」 (下線付加) :
- * 真の福音が理解できない状態
 - * 鍵は神の霊 → 聖霊のご介入が必要
 - * 聖霊のご介入なくして福音を受け入れることはできない
- : 4 「その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて…輝かせないようにしている…」 :
- * この世の神、この世の君主はサタン
 - * 「悪い者」
→ マタイ 6 : 13
 - * この世は、サタンの縄張り
 - † サタンは信徒の関心、—キリストと御言葉— に敵愾心を持つ
 - † サタンの主要な武器は、偽りと偽装
 - * サタンの武器、—この世の人を目くらましにする— は多種多様
 - † 進化論、人道主義、心理療法、人の神格化…
 - 人類文明は進化どころか、道徳的、物理/身体的、霊的に明らかに墮落—
 - * 「現天地」、背後に考案
 - † 自然界の微妙なバランスの存在は背後にデザインがあることを暗示
 - † 大自然の考案者、創造者なる神は、すべての事象に責任を持っておられる！
- : 6 「…キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださった…」 (下線付加) :
- * 神の霊に照らされた者は、キリストの御顔に反映された父を見る
→ ヨハネ 14 : 9
- : 7 「私たちは、この宝を、土の器の中に入れているのです…」 (下線付加) :
- * 私たちは、
器ではなく宝、—私たちの中の宝、内住のキリスト— に焦点を当てなければならない
 - * 自分の中のキリスト、それが宝
→ キリストはご自分に属するものを知っておられる！
 - * 神は、ご自分の栄光をご自分に属する人に与えてくださる
- : 10 「いつでもイエスの死をこの身に帯びていますが、それは、イエスのいのちが…」 :
- * 嵐は水夫の尺度
- : 11 「私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されていますが…」 :
- * 人の本当の特質はその人の弱さにある
 - * 私たちの遺伝的な構造は (人類の父祖から罪を受け継いだにもかかわらず)、
変わらず、神の御手の中にある
- : 13 「…それと同じ信仰の霊を持っている私たちも、信じているゆえに語るのです」 :
- * 信じることは神の御目的、ご計画を知ること

聖書

信じる者の忍従の秘訣

1. 究極的な勝利の確信
2. 神に栄光が帰されるため
3. 試練は自分自身のため
4. 見えない世界が本物であることの確信

1. 究極的な勝利の確信

: 14 「…イエスをよみがえらせた方が…御前に立たせてくださることを知っているから…」 :

* 信徒への五つの約束

1. キリストとともにいる
2. キリストのようになる
3. 神の栄光にあずかる
4. 満たされる
5. キリストともに支配する

2. 神に栄光が帰されるため

: 15 「すべてのことはあなたがたのためであり…神の栄光が現れるようになるためです」 :

* 信徒、— 「神のご計画に従って召された人々」 — への約束

→ローマ人8 : 28

3. 試練は自分自身のため

: 16-17 「…たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています…」 :

苦悩と栄光

☆しばらくの間の軽い苦悩と、とこしえの栄光の重み

4. 見えない世界が本物であることの確信

: 18 「私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます…」 :

* 本物を見る、知る、とは、

焦点を明確に絞った結果の凝視、真理に釘づけになる目